

金井清氏が遺した原爆被害調査関連資料

寄贈／工藤一嘉

金井清さんは、当時、東京帝国大学地震研究所技師。38歳。

1945年(昭和20年)8月、文部省から原爆被害の現地調査に派遣され入市被爆。10月から翌年1月にかけても広島や長崎で調査を行い、熱線が残した影の方向や角度などから、爆心地の位置や原爆が爆発した高度を推定した。この調査内容は、1953年(昭和28年)に刊行された『原子爆弾災害調査報告集』で報告された。

今回寄贈された資料からは、爆心地からの距離と、爆風による建造物への被害について調査されていたことが分かる。



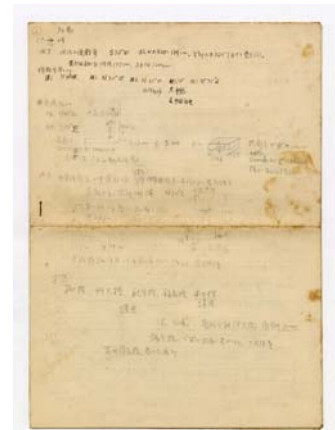
金井研究室日誌 (昭和20年9月19日～12月20日)

日記を記したのは助手の前田敏雄さん。

調査の際に撮影した写真の撮影日時、場所など細かく記されている。

広島での調査メモ

調査をした日ごとに、建造物への被害や熱線による影についてメモ書きされている。



広島市街の建造物の調査結果一覧